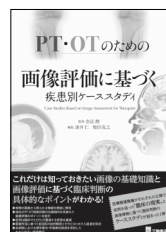


奈良 勲 (監), 浅井 仁, 柴田克之 (編)

PT・OT のための 画像評価に基づく疾患別ケーススタディ

河野 光伸

(金城大学/金城大学大学院, 作業療法士)



最近の理学療法士・作業療法士国家試験では、骨折、脳卒中、慢性閉塞性肺疾患 (COPD)、嚥下造影検査等の画像を読み解く問題が必ず出題されている。国家試験で初めて症例の X 線画像を用いた問題が出題されたのは第40回で、理学療法士国家試験では骨折、作業療法士国家試験では慢性関節リウマチの X 線画像が使用された。そして、第41回国家試験からは脳卒中の CT 画像に関する設問もあった。

一方、近年の電子カルテの普及によって、リハに関する日々の記録も電子カルテが利用されるようになった。したがって、PT、OT、ST は、症例の画像を診る機会も増えている。そして、ケース会議やカンファレンス等で画像所見や画像の経時変化を読み解き、症例のリハへつなげていく能力が求められるようになった。

このような時代背景の中、PT、OT、ST に向けた画像を読み解くための解説書も多く出版されている。これらの書籍は、各疾患における画像の異常所見や病巣部位の見分け方、異常所見・病巣部位と解剖、および臨床症状との関係について解説した内容のものが多く、そのた

め、国家試験の勉強だけではなく、臨床業務で利用しているセラピストも多いであろう。

さて、本書の第1章では単純 X 線画像や CT、MRI 画像の撮像原理、そして、異常所見を読み解くために必要な知識と、画像を診るときのポイントについて解説されている。また、PT、OT も撮像可能な超音波画像の撮像原理、撮像時の要点についても記載されている。第2章では本書の特徴として種々の疾患について症例が提示されており、その症例の病態、X 線や CT、MRI 画像の経時的な所見とリハにおける予後予測、治療経過について説明されている。さらに、本書の優れた特徴は、各疾患における急性期から回復期、退院に至るまでの発症後期間ごとの、PT、OT の治療経過に沿って症例の課題点、リハ目標、PT、OT プログラムが記載されている点である。これは、これまでに出版されている画像所見の解説書と異なる内容である。そして、特定の症例における治療経過について、医師、PT、OT それぞれの視点が具体的に記載されていることも、本書の特徴の一つである。ちなみに、本書に記載されている症例の具体的な疾患は、運動器疾

患:「上腕骨近位端骨折」「変形性膝関節症」「大腿骨頸部骨折」「膝前十字靱帯損傷」「腰椎圧迫骨折」「腰椎椎間板ヘルニア」、神経系疾患:「脳出血」「脳梗塞」「くも膜下出血」、内部疾患:「慢性閉塞性肺疾患 (COPD)」「肺炎」「肺がん」「心不全」「心筋梗塞」「腎不全」である。これらは、PT、OT の国家試験およびセラピストが臨床現場で担当することが多い身体機能損傷の疾患をほぼ網羅している。

2020 年度に改正される新しい理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則では、専門基礎分野の中で画像診断学を含み、専門分野の理学・作業療法評価学の中では、画像評価についての履修が必須となる。そのため、本書は PT、OT 養成校での科目履修や臨床実習において、たいへん役立つ書籍であると感じた。また、養成校での学修場面だけではなく、現役の PT、OT、そして ST にとっても、症例の画像所見とリハプログラムを結びつけるための参考書として、非常に有用な書籍であると思えるイチオシの一冊である。

B5 判 184 頁 3,600 円+税
三輪書店 刊
☎ 03-6801-8357